

国際コミュニケーション学

丹下容子・寺井 一
山田 孝

【抄録】 本校の中高一貫カリキュラムにおける新教科群は、平成13（2001）年より高校1年生からスタートして、平成14年度には、当初の予定通り高校2年生の前期「国際コミュニケーション学」開講し、後期を加えて2年間で2単位を取得する新教科群が完成することになる。高校2年生前期では、国語、英語、社会の教員が共同で新教科「国際コミュニケーション学」を担当した。

【キーワード】 国語 英語 音声 文法 文化 国際理解

I 音声・言語構造から見るコミュニケーション学

1. 講座のねらいと効果

「国語」「英語」という既存教科の枠内では扱えない言語の問題を取り上げた。日本語と英語の比較という視点から国語科・英語科教員のTT形式で実施した。英語が不得意な生徒でも母語の観点から積極的な発言をする場面が多く、結果的には「国語」「英語」という教科への意欲にも結びついたように思われる。

2. 講義内容

(1)第1回に全体説明をした後、第2回は寺井・丹下グループの生徒に対して「日・英語比較で取り上げてほしいこと・興味があること」のアンケートをとった。その主なものを以下に列記する。

- ・語順の違い
 - ・文字表記（かな・漢字、アルファベット、大文字・小文字、分かち書きなど）
 - ・時制体系の違い（英語の時制の一致）
 - ・英語の動詞の活用（3単現、be動詞、過去）
 - ・英語の前置詞と日本語の助詞
 - ・英語には主語が必要。無生物も主語になる。
 - ・英語は論理的で日本語はあいまい。
 - ・冠詞 ・敬語
 - ・修飾語と被修飾語の位置関係
 - ・日本語や英語の発達の歴史
 - ・文字の起源 ・自動詞と他動詞 ・擬音語・擬態語
 - ・日本語は同音異義語が多い
 - ・英語の“I”と日本語の「私」「僕」「俺」など
 - ・アクセントと意味 ・綴り字と発音の関係
 - ・母音の種類 ・日本語は子音+母音
 - ・日本語の濁音、半濁音 ・5・7・5のリズム
- 生徒たちの興味・関心は、おおざっぱに分類すると文

法・語彙・音声の3分野にあるようだ。そのうち音声と文法をとりあげることにし、前者を寺井、後者を丹下が担当することにした。寺井は日本語を中心として「音声」というものを捉える様々な視点を生徒に提供し、体験させることを行った。丹下は日本語の文法を見直すことが英語の文法を理解させる一助になるのではないかという考えから、「主語」と「時制」という2つの項目について日英語比較の作業と検討を行った。どちらも途中で1回ずつ名古屋大学の教官による授業を挟んでいる。

(2)音声について（第3回～第8回）

①第3回（5月8日）

- | |
|---------------------|
| 1. 音声を観察する際の二つのポイント |
| ①単音のレベル ②韻律のレベル |
| 2. 単音と音節 |

音声の学習の導入の意味を込めて、1. の二つのポイントについて授業した。①については、「かい」と「たい」という二つの単語は、どこが違っているから異なる単語として認識されるのか？」②については、「とりにくかった」と表記される文はいくつの意味が考えられるか？」という問いかけを行って考えさせた。①は、[k]と[t]の違いであり、このようにこれ以上分割できない音を「単音」ということ、②は4つの意味が生じるが、それは音の高さ・長さ（ポーズ）・強さなどの「韻律」の要素によって、意味を言い分けるのだということを学習した。②は、実際に発音させて聞き手に自分の意図した意味が通じるかを確認させた。実際には聞き手にうまく伝わらないことが多い。この体験により、母語であっても完璧にコミュニケーションすることが難しいこと、しかし、話し手は伝わっているつもりであることの問題を提起した。

2. については、「socks」は何音節か?という設問を發し、日本人は3音節と答える者が多いが英語では1音節と捉えるという事実を示し、その違いの起こる理由について考えた。

②第4回(5月15日)

3. 母音と子音(単音のいろいろ)

- ①母音 ②子音 ③特殊音素(撥音・促音・長音)

先回の復習を兼ねて、まず、日本語の音節構造と英語の音節構造の違いについて考え、まとめた。そこからの発展で、母音と子音の違いを考え、その生成条件の差異について学習した。

そして、日本語の5つの母音がどのように発音されているのか、生徒全員で発音して考え、確認した。

③第5回(5月22日)

先回のまとめとして、母音の生成条件の確認をし、さらに、「ア」といっても1つでなく様々な異音があること、「イ」と「ウ」の中間の母音などを実習した。

子音については軽く触れるにとどめ、調音点と調音法について、「サ」と「シ」の子音の違いやハ行子音の例を用いて学習した。

④第6回(5月29日)

特殊音素については、撥音・促音・長音(「ん」「っ」「ー」)の正体について、発音し他者の音声とも比較検討するという実習をしながら学習した。

4. アクセント

- ①定義 ②機能 ③知覚の練習
④アクセントの地域差

韻律の要素の1番目としてアクセントを扱った。定義・機能を考えた上で、2拍～4拍のアクセントパタンの知覚練習を少し行った。その後、名古屋方言のアクセントの特徴を考えてみた。

⑤第7回(C組6月4日、A.B組7日)

この回は鹿島央先生(名大留学生センター教授)に特別授業をお願いした。音声がお専門の先生にはこの「新教科群」の授業についてもアドバイスをいただいたが、授業では「日本語のリズム」について、実際の音声をお聞かせいただきながら、先生の説の「リズム単位」をもとに、お話しいただいた。

⑥第8回(6月12日)

東京方言のアクセント法則を示し、それと異なる名古屋

方言の法則を考え確認した。

名古屋アクセントは生徒達に非常に親しみのあるものとして受容された。しかしそれが方言であるという自覚はない。現在の高校生の日常にもそれが十分に保存されていることを授業者の採録した音声を聞かせた。

(3)文法について(第9回～第15回)

①第9回(6月19日)～第11回(7月3日)

6回の担当分を2つに分け、前半の3回を「日本語の主語について考えよう」というタイトルで実施した。主語の有無による論理性、日本語の助詞の問題に触れながら、「は」と「が」の用法に最も時間を割いた。母語話者であっても「は」と「が」の使い分けのルールをはっきり理解しているわけではないということに気づき、生徒たちは衝撃を受けたようだ。最終的には、平素から英語の授業で気になっていた次のような「は」と「が」の係り方についても検討した。

次の文でシートベルトをするのは誰か。

1. 彼は車を運転する時シートベルトをする。

2. 彼が車を運転する時シートベルトをする。

「は」と「が」に注意して次の英文を和訳せよ。

1. Many children say *ittekimasu* when they leave for school.

2. I saw an old man get on the bus.

②第12回(7月10日)～第15回(9月11日)

後半3回分のタイトルは「日本語の時制とアスペクトについて考えよう」である。英語と日本語の時制・アスペクトの体系を検討し、比較した。英語の「時制の一致」の概念は生徒たちが苦手とする文法項目の一つである。しかし、日本語の例文を使うと相対時制の概念もそれほど難しくはなくなり、もう一歩踏み込めば英語の時制もわかるようになるのではないかという手応えを感じた。また、なぜ英語の現在完了は日本語話者にとって難しいのか、という理由も日本語の時制体系との比較によって理解してもらえたようである。

③第13回(7月17日)

言語学がご専門の町田健先生(名大文学研究科教授)に特別講義をお願いした。タイトルは「コトバの性質を考える」で、日・英語の時制体系、仮定法、語順についてお話しいただいた。

④文法授業のまとめ

平素から、母語との比較が効果的になされれば生徒たちの英語の理解も深まると感じているが、母語に関する知識は自明の理であり、自分も生徒もよくわかっていることだと思いこんで授業をしてきたところがある。今回

のこのような授業を通じて、母語の仕組みをきちんと理解することによって外国語との正確な比較ができるようになり、それがその外国語の理解につながっていくのだという考え方は間違いではなさそうだという確認をすることができ、教師自身も日本語の仕組みについて新たに学んだことが多かった。反省点は、毎回教師が作成したプリントを使用して作業や検討をさせたが、時間の都合上、教師側からの講義形式になることが多かった点である。

最後に生徒の感想を載せておく。

《英語の得意な生徒の感想》：

- ・予習の時にwhen節を訳すとき、英語が過去形の時に現在形の日本語で訳したり、英語が現在形の時に過去形の日本語で訳したりすると、いつもこれでいいのかなと心配だったが、この授業をきいて仕組みがわかり、すっきりした。

- ・これからは自信をもって英語を訳すことができる。英作文にも役立ちそう。

《英語の苦手な生徒の感想》：

- ・日本語と英語の時制はこんなにも違うんだということがよくわかった。でも、違っていても同じ内容を表せるということはずごい。

- ・先生がいつも言っている「時制の一致」というものがなんとなくわかったような気がした。

- ・英語は苦手だけど日本語に興味をもった。こんな風に日本語の仕組みを研究する方法があるんだと知り、大学では日本語を勉強してみたいと思った。

- ・英語圏の人が日本語を習うときにも時制で苦勞するんだということがわかった。(丹下・寺井)

II 比較文化から見たコミュニケーション学

1 講座設定のねらい

「国際コミュニケーション学」へのアプローチの仕方として、比較文化を取り入れることにした。コミュニケーションが手段として相互の理解を図る道具とするならば、その根底にある共通性や非共通性についての理解を必要とすると考え、この課題を設定した。共通部分と非共通部分を理解することにより異文化を理解する起点としようとしたのである。そして、最終的には「道具」としてのコミュニケーションと「政策」としてのコミュニケーションにも考察を深めるものである。

2 講座の内容

①第2回4月24日「コミュニケーションとしての“笑い”1」、落語「千早ぶる」を鑑賞し意見を交流する。第3回5月8日「コミュニケーションとしての“笑い”2」、落語「芝浜」を鑑賞し意見を交流する。第4回5月15日「コミュニケーションとしての“笑い”3として『日本と他国との比較研究』」。英語の原文と日本語を比較しな

がら、英語のユーモアを検討した。第5回5月22日「コミュニケーションとしての“笑い”4として『スモールトークを考える』」。 「笑い」「ユーモア」というものも、共通の文化的バックボーンがあって成り立つことが理解できた。日本の落語というジャンルでも「聞いても理解できない」（「千早ぶる」）。

②第6回「音・構造・リズム 回文から文の構造を考える」。第8回6月12日「回文を創る1 日本の回文」。第9回6月19日「回文を創る2 世界の回文」。

第10回6月26日「回文を創る3」では、生徒が創った回文作品の発表会を行った。回文は、かなりの語彙力と言葉の構造を理解していないと創るのは困難であった。さらに、音声としても成り立つ回文を作成するには、3回の授業だけでは不可能であった。

③第7回 鹿島央先生の講義（合同）

④第11回7月3日 文字を主体としたコミュニケーション1 様々な文学を読む「古代ギリシア」の喜劇アリストファネス「雲」の一部を読む。

第12回7月10日 文字を主体としたコミュニケーション2 ルネサンス・ヨーロッパ。

⑤第13回7月17日町田健先生の講義（合同）

⑥第14回9月4日 文字を主体としたコミュニケーション3 言語政策を読む1。第15回9月11日文字を主体としたコミュニケーション4 言語政策を読む2。第16回9月18日合同授業「歴史に見る言語政策」として授業のまとめを行った。

3 今後の課題

「国際コミュニケーション学」をどうとらえるかで自分の中にも消化不良の点があった。生徒には「コミュニケーション」の新しい「切り口」を紹介して考える機会とはなっていたとは思われる。講座としてのコンセプトをどう確立していくのか、今後とも検討していきたい。

(山田)

高校2年生 前期 「国際コミュニケーション学」授業計画

	山田 比較文化から見た コミュニケーション学	丹下 言語の構造から見る コミュニケーション学	寺井 音声から見る コミュニケーション学
4月 7日	オリエンテーション 担当教員よりグループの活動内容の説明 希望調査		
4月 24日	コミュニケーションとしての “笑い” 1 日本の伝統文化にみる笑いとユー モア	日・英語比較で取り上げてほしい こと・興味があることについての アンケート	丹下 寺井合同
5月 8日	コミュニケーションとしての “笑い” 2	丹下 寺井合同	音声について1 音声を観察する際の二つのポイン ト
5月 15日	コミュニケーションとしての “笑い” 3 日本と他国との比較研究	丹下 寺井合同	音声について2 母音と子音
5月 22日	コミュニケーションとしての “笑い” 4 スモールトークを考える	丹下林間 寺井合同	音声について3 前回のまとめ
5月 29日	音・構造・リズム 回文を考える	丹下寺井合同授業	音声について4 特殊音素について アクセント
6月 5日	鹿島央先生（留学生センター教授）の授業「日本語のリズム」		
6月 12日	回文をつくる1 日本の回文	丹下寺井合同授業	音声について5 アクセント法則
6月 19日	回文をつくる2 世界の回文	文法について1	丹下寺井合同授業
6月 26日	回文をつくる3	文法について2	丹下寺井合同授業
7月 3日	文字を主体とした コミュニケーション1 様々な文学を読む 古代ギリシア	文法について3	丹下寺井合同授業
7月 10日	文字を主体とした コミュニケーション2 ルネサンスヨーロッパ	文法について4	丹下寺井合同授業
7月 17日	町田健先生（文学部教授）の授業		
9月 4日	文字を主体とした コミュニケーション3 言語政策を読む	文法について5	丹下寺井合同授業
9月 11日	文字を主体とした コミュニケーション4 言語政策を読む	文法のまとめ	丹下寺井合同授業
9月 18日	合同授業 歴史に見る言語政策 授業のまとめ		